

## 第13部

### 医療・災害医療現場での情報技術活用技術の研究

奥村 貴史、中河 清博、前田 貴匡

---

#### 第1章 はじめに

---

わが国においては、社会の高齢化による医療需要の増大と社会保障費の抑制圧力によって、医療現場の負担が増大し続けている。情報技術は、本来、そうした医療現場の負担軽減に寄与すべきであるが、国の関連政策に問題が多く、逆に医療現場の負担増大に繋がるような状況が生じている。Medicri (Medical Crisis) WGは、この「医療崩壊問題」に加えて、とりわけ医療現場の効率性が求められる「健康危機管理」に対する情報技術の寄与について検討することを目的として、2010年4月に設立されたワーキンググループである。今年度は、下記に示す活動を行った。

---

#### 第2章 人材育成

---

医療崩壊の背景にある医療従事者の勤務を改善していく上で、医療用情報システムの品質向上は欠かすことが出来ない。そのためには、医療と情報の双方に通じた人材の育成が求められるが、わが国には医療の情報化における研究開発を担う人材育成のための枠組みがほとんどない。そこで、WIDE研究会を活用し、WG開始時より継続して行っている情報系人材に対する医学教育の取り組み、「情報系学生のための医学概論」を実施した。本企画は、既に第16回を数えている。

---

#### 第3章 保健医療福祉行政への支援活動

---

保健医療福祉行政への支援活動として、保健医療行政向けの危機管理用情報システムに対する技術支援を継続し

て行っている。行政においては、行政改革による定員の継続的な削減と非効率な業務慣行により、慢性的な人員不足に陥っているため、災害やパンデミック等において健康危機管理を支援する体制の確立が欠かせない。そこで、以前より行っている健康危機管理に向けた技術支援を継続した。また、今年度は、過去の健康危機時に生じた行政内部の混乱を事例として整理し、「ケースメソッド」による行政内部の人材育成に貢献した。

---

#### 第4章 活動拡大に向けた議論

---

WG活動の活発化に向けては、より多くのメンバーの獲得と活動予算の確保が求められる。しかしながら、WIDEにおける研究会や合宿への参加者の減少傾向もあり、大幅な新規メンバーの獲得には至っていない。また、活動予算についても、適切な予算の獲得には至っていない。一方、WG活動を通じて、医療の望ましい情報化に向けた様々なアイデアや情報がWGに集積してきたことから、クラウドファンディング手法を用いることで、広報と予算の問題を同時に解決しえないか議論を行った。

---

#### 第5章 おわりに

---

WG設立から、今年度で6年目の年度となった。医療崩壊問題への対応や健康危機管理については、行政内部からも支援に向けた要請が少なからずあるものの、我々側の人員不足により適切な対応が行えていない。今後、人材育成と活動予算確保の努力を続け、WG活動の拡大を図りたい。支援能力の拡大を図りたい。